



競争原理という現実

令和7年9月1日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

世界の歴史において敗者が世界を与えたことはない。唯一勝者がこれを行っただけである。これらは競争原理への正しい考察である。

競争は生存本能と要求に基盤する現実である。生存がすべての支配する過去という現実には必ず真実である。これらは過去における戦争の原因である。

これらは世界が新たなステージと段階、未来を飛躍するとき、それら原始的な本能である生存要求という現実を、その倫理的な飛躍と新たな豊かさの創造において、克服し、競争と争い、戦争と対立という原因から、未来と理想という新たな可能性への転換を提案できるのである。

これらが合意と平和の共有を与え、未来の実現を確約できる。これらが無限という未来の可能性を自己とし、新たな創造性における世界の提案を実現できるのである。

これらはネクストソサエティの創造は、生存という絶対性の克服における新しい世界であることができることを意味するものである。

またこれらが新たな世界のシステムの構築を経て、新たな世界の実現を提案できるものである。

これら新たな世界の枠組みは、異なる未来の実現を人類がその過去の克服とともに実現できるものであり、それらは無限の可能性という新たな未来の実現を提案できるものである。

これら是对立という世界の現実から、新たな価値観における世界の合意における未来の実現を新たに提案できるものである。

これらが政治のリーダーシップにおいて与えられる新たな未来であり、対話という選択は、各諸国の合意を経て、その未来の実現を約束できるものである。